

国立国語研究所学術情報リポジトリ

愛知県小牧市藤島方言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003030

方言録音資料シリーズ—10

愛知県小牧市藤島方言

国立国語研究所編

1 9 6 8

このテキストは、方言研究用の資料として作られたものである。方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成は、国立国語研究所話しことば研究室のもとめに応じて山田達也（名古屋市立大学助教授、国立国語研究所地方研究員）がおこなった。

も く じ

収録地点とその方言について..... 2

表記について 3

本 文

1. 昔といま 5

2. 昔の祭り 24

注 29

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：愛知県小牧市藤島

2. 収録地点の概観

もと西春日郡北里村に属し、名古屋の中心より北方約10km，米麦を中心とした尾張部の平均的な農村部落。名古屋から名古屋鉄道犬山線で約30分，岩倉下車，東南へ歩いて30分。昭和38年に編入された小牧市の中心へは歩いて40～50分。交通の便が比較的悪く，純農村の面影が濃かったが，最近は近くに団地，工場等が出来，ようやく都市化の波が押寄せつつある。

3. 収録した方言の特色

藤島方言については，国立国語研究所「日本方言の記述的研究」のなかの野村正良氏の「愛知県西春日井郡北里村」に全般的な記述がある。収録した部分についていえば，最大の特徴は，〔æ, oe, y〕で表記した変母音であるが，その他文法事項としては *naqtemau* (なってしまう：完了)，*sjonise:seN* (本当にしない：打消)，*iki(j)oru* (行きつつある：進行)，*(iki(j)orqta* (行ったものだ：回想)，*jaqtoru* (やっている：状態)，*jaqtoraqseru*，*jaqtorasita* (やっておられる，やっておられた：敬語) のような派生語関係，男子の使う，断定・意志等をやわらげる終助詞 *wa*，理由の接属詞 *de* (から) など特に注目される。

4. 地点選定の理由

名古屋近郊の尾張地区農村の言葉として平均的なものであるというのが選定の理由である。

表 記 に つ い て

[指定の字母以外に使用した字母，および補助記号]

字母・補助記号 記号の種類	語 例	(標準語訳)
æ	h æ : (p. 6)	(無い)
oe	o oe : (p. 5)	(多い)
y	suqkokiniky : (p. 22)	(梳きにくい)

1. 表記は音素的であるが，方言の特色あるものについては，きわめてブロードな音声的表記とした。
2. [æ :], [oe :], [y :] の三者は音素表記をせずにそのままとした。
3. [æ :] は [æ̃] [æ̃̃] とおもわれるものを含む。[oe :] は，これよりせまい [ø] を含む。[y :] は [ỹ] のように二重母音的なものも含む。[oe :], [y :] ともに左右からのくちびるのせばめが少なく，それぞれ [ẽ], [ĩ] のような中舌音に近いばあいがある。
4. 文節ごとの分かち書きとしたが，二文節の融合したものは続けてしるした。
5. 聞き手となった山田達也 (編者，略号 Y) の発言は，主旨だけを「 」にいれて漢字かなまじり文でしるした。(実際は藤島方言で発話)

1. 昔 と い ま

録音日時 1967年8月28日

録音場所 愛知県小牧市大字藤島
字居屋敷 山田正子氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
W	加藤桑三郎	男	明治21年生	農業	藤島のみ
M	加藤桑三郎	〃	〃 23年生	〃	〃
Y	山田達也(編者)	〃	大正14年生	教員	藤島1才~8才, 名古屋9才~

解説：部落の編入のことから交通の便、通学、労働の話とうつり、今年の稲の害、はまきのこと
に終わっているがこの間、随所に今と昔の比較がされている。

なお、会話はYが聞き役となってW、Mの話を書くという形で進むが、最後はWとMだけ
の対話となる。

W hora komakii cukuka naŋojæ: cukukateja:
それは 小牧へ つくか 名古屋へ つくかと言えば、

naŋojæ: cukuho:ŋa mirjoku... naŋojano:ŋa
名古屋へ つくほうが 魅力……。 名古屋のほうが

mirjokuŋa oœ:dena
魅力が 多いでな。

M hæ: naŋojæ: cukja sunt o ano pasuo mazu
もう 名古屋へ つけば すぐと あの バスを まづ

tojojamedemo moqtekurumondejo: komakidewa
豊山(の場合)でも もってくるのでねー。 小牧では

hubendawa
不便だ。

Y 「いま、そうするとどうやって行くんですか、小牧は？」

M komaki zju:sanzukakara pasun aru dakede
小牧は 十三塚から バスが ある だけで、

mæ:de nanimo næ:de kaN hubendawana
(ほかはなにも)無いで なにも 無いで いかん。不便だ。

W hora naŋojanohe:ŋa beNriN arude
そりゃ 名古屋のほうが 便利が あるので。

M hN: sijakusjomaede orosujonnaqtoruwana
ふんん 市役所前で 降ろすようになっている。

zu:qto joqporo icizikaN ano: hacizi kuziwa
ずうっと よほど、 1時間 あの 8時・ 9時は

sanbondaŋuræ: arude icizikaNni sanbondaŋuræ:
3本ぐらい あるので、 1時間に 3本ぐらい

arukedo ma:
あるけれども、

W niqcu:wa iqponhoka næ: komakiikiwa hubenda-
日中は 1本しか 無い。小牧行きは 不便だ。

wana horeka: iwakura: mawaq…… iwakuræ:
それか 岩倉を まわって …… 岩倉え

mawaruni temaN kakarusi
まわるに 手間が かかるし。

Y 「電車は無くなったと聞いたが。」

M deNsjaano:naqtemaqtawana icinomiŋamo
電車は 無くなってしまった。 一宮線も。

W deNsjava toriaŋete
電車は 取上げて、

M …… komakimo
小牧線も。

Y 「一宮もなくなってしまった?」

M e: pasuN naqcjaqta sonohe:ŋa beNridawa
ええ バスに なってしまった。 そのほうが 便利だ。

tokinasi: ano pasuwa dasudena saqsaq saq-
時間なしに あの バスは 出すのでな サッサッ サッ

saqto okjakuŋa arisidæ: dasude
サッと お客が あり次第に 出すので。

Y 「ああ そうですね。」

M e: ma: deNsja maqtoqte deNsjae kjakuN kuru-
ええ もう 電車を 待っていて、 <電車へ>、 客が 来る

to cuqto noserusi jo: hora pasunoho:da zi-
と スーツ 乗せるし なあ。 そりゃ バスのほうが 自

juN jorosi:wa deNsjamicio hasirakasujo:ni
由が よろしい。 電車道を はしらせるように

mukasino deNsjamici minna pasudo:roni site-
昔の 電車道を 皆 バス道路に して

maqtade
しまったので。

W ma: doqcikato ju:to kawaqtakotowa ima:
もう どちらかと いうと 変わったことは、 いま

kocira da mukasibanasi seruto hazukasi:Duræ:-
こちらが 昔話を すると 恥ずかしいぐらい

da (笑) jononakan naqtesimaqta keredomo
だ 世の中に なってしまった。 けれども

se:kacutositewa do:mo mukasino:da jutori-
生活としては どうも 昔のほうが 少とり

da arujo:na kinaseru imawa ma: hon toni
が あるような 気がする。 いまは もう 本心に

tokæ:kasite kane kane kane kane (笑) kane da
都会化して、 金、 金、 金、 金 金が

dæ:icini naqtemaqtawa
第一に なってしまった。

Y 「人の気質も変わって来ますねえ。」

W e:e kawaqtawa na: ma: imawa kawaqtakoto
えええ 変った ねえ。 もう いまは 変わったことを

ucide hanæ:taqte kodomon tora: sjo:ci (笑)
家で 話しても 子供達が 承知

honnakoton aqtakato ju:hu:ni sjo:cise:senwa
そんなことが あったと いうように 承知しない。

Y 「今学校はあれですか。皆やっぱり子供さん達そろって行くのですか？」

M ho:desu mæ:asa zju:sanzukamade:cu: ojan
そうです。 毎朝 十三塚まで 親が

okuridasuda ano:kurumaða oœ:de gaqko:
送り出す。 あのう 車が 多いので 学校……

zju:sanzukano jocucuzimade okuridæ:te hode
十三塚の 四辻まで 送り出して、 それで

aqcikara kuruma asokono jocucuzi abunæ:mon-
あちらから 車……, あそこの 四つ辻は あぶないの

de hutari:cu na:kawaribande mai-asa okuri-
で、 二人づつ ねえ 交替で 毎朝 送り

dasannaran
出さなければならん。

W e:horja: sono dancino danpuða mæ:asa nan-
ええ そりゃ その 団地の ダンプが 毎朝 何

bjakudæ:to toorumonde na: icincini jo: hode-
百台と 通るので ねえ 一日に ねえ。 それで

wa abunæ:deteqte cu:ðakuro mo wazato cjoqto
は あぶないといって 通学路も わざと すこし

inamin tokoro: tooqte hode oqkasanða hutari:-
南のところを 通って、 それで 母親が 二人

cu goe:site ikijoqta
づつ 護衛して いました。

M wasinoho:wa okaðede mazu ano: hitorimo
わしのほうは おかげで まづ あのう 一人も

zikowa næ:de e: ariðatæ:wana e: ma: niziq-
事故は 無いで ええ 有難い ええ。 まあ 20

cjo:mo ajobannarande eræ:wana gaqko:……
町も 歩るかなければならぬので 大変だ。 学校……

Y 「20町ありますかあれ。」

M ma: niziqcjo:wa aruwa na: kociran haqcjo:
まず 20町は ある なあ。 こちらが 8町

muko: zju:nicjo:to ijoqtan niziqcjo:wa næ:
むこうが 12町と 言ったが 20町は 無い

ma: zju:haqcjo:
まあ 18町……

W zju:haqcjo:ðuræ:……
18町ぐらい……

M zju:haqcjo:ðuræ:wa aruwana: e:
18町ぐらいは あるわなあ ええ。

Y 「何かしらないが子供の時遠いと思いましたが、わたしが一年生にあがったとき……子供の
気持では遠いと思いましたが……」

M hora to:oe:wana: imawa soroqte ikudade ci:-
そりゃ 遠いわなあ。 いまは そろって 行くので 小

sæ: kodomo eræ:wa hasiqte ma: sionsankatano
さい 子供は 大変だ、 走って。 もう しおんさん(人名)ところの

kodomowa jo: hasirizumedawa ci:sæ:de eræ:
子供は 走りつづけた。 小さいから 大変な

koqtawa
ことだ。

W hode jo:cienwa kitazatoni aqtemo jo:ikanwa-
それで 幼稚園は 北里(村名)に あっても 行くことが出来

na: sonono⁽¹⁾hoe:e iqtesimaqte
ん 會野(部落名)のほうへ 行ってしまつてて。

M iwakuracjoe iqtemaqta
岩倉町へ 行ってしまった。

W sonono zinse:iinda……
會野の 神清院が

M oterade jaqtorude
お寺で やっているのです。

W watakusiricuno jo:cieno jaqtorareruwana
私達の 幼稚園を やっておられる。

sokoe: minna iqcjauwa anmari tooe: dena
そこへ 皆 行ってしまつ、 あまり 遠いので。

izure kode dancino ga dekiruto kono huzisi-
いづれ これで 団地の…… が 出来ると この 藤島

mano ho:menimo hitocu dekirudaro keedomo
の 方面にも 一つ 出来るだろう けれども、

ima-genzæ:wa so:ju: zjo:tæ:de
現在では そういう 状態で……

Y 「幼稚園なんか夢のようで、昔遊んでくれたものは蛇やギャーロで……。」

W manda wasintora:no zidæ:wa gaqko:tju:monno
未だ わし達の 時代は 学校というもの

hontoni mini cy:torande kakureasubi kakure-
本当に 身に ついておらんので、 かくれ遊び かくれ

asubite iqte na: bento: moqte uciwa deruke-
遊びと いらて 弁当を もって 家は 出るけ

redomo tocju:de kakurete
れども 途中で かくれて……

M ma: hucu:no monodewa sjo:ðaako: jonense:
まあ 普通の 子供では 小学校 4年生

ikunara hæ: sigoto sennaran sjo:ðaako nana-
いくなら はや 仕事を せならぬ。 小学校 七

cukara iqte ma: nanacuja jaqcude ikuda hode
つから いて、 まあ 七つ 八つで いくだ。 それで

sjo:ðaako jonen: ikunara ucide sigoto bowa-
小学校 4年生 いくなら 家で 仕事 ぼわて

rete mukasino okæ:kono ami andari jo: nawa
(いそかしくいられて) 昔の おかいこの 綱 あんだり 縄

naqtarisennaranda
なったりしなければならなかった。

Y 「あの時分から同じところですか、学校の位置は。」

M ho:da sjo:ðaako:wa zju:sanzukani aqtadena
そうだ 小学校は 十三塚に あったで。

sorewa komakimura takimura misi:ndento wasi-
それは 小牧村 滝村 巳新田と わし

noho:to ano aza icucuɖuræ:no sjo:ɖaɖko:ɖa
の方と あの 字 五つぐらいの 小学校が

asukoni dæ:bun o:ki: sjo:ɖaɖko:ɖa aqta
あそこに、 大分 大きい 小学校が あった

W hode ko:to:ɖaɖkoɖa nisikasudæ:de miɖcu
それで 高等学校が 西春日井で 三つ

aqtawa na: hokubuni se:bu to:buteqte o:zo-
あった。 北部に 西部 東部といって 大曾

nekinzjomo nisikasudæ:daqtadara o:zonekin-
根近所も 西春日井だっただろう。 大曾根近

zjoɖa to:buteqte arewa sinkawani aqtandawa-
所が 東部といって あれは 新川に あったのだ。

na hode hokubuteqte muɖsini wasintora:
それで 北部といって 六ッ師に わし達が

ikijoqta tokoroɖa aqta ko:to:-gaɖkoteqtemo.
行きおった ところが あった。 高等学校といっても

sono zibun ko:to:sjo:ɖaɖko: tijoqtakedomo
その 時分 高等小学校 といったけれども

niriɖuræ: kakete kijoqtawa na: imano gakudo:wa
2里ぐらいの 籠囲から 来たものだ。 いまの 学童は

sorja toœ: toœ:to ju:keedomo sono ko:to:-
それは 遠い 遠いと 言うけれども その 高等

ɖaɖko:wa nisikasudæ:ni miɖcudamondade toœ:-
学校は 西春日井に 三つだので 遠い

kotowa niriɖuræ: arijoqta hode wasintora:no
ことは 2里ぐらい ありよった。 それで わし達の

zidæ:ni nakanono:toju:tokokara kijoqtakedojo:
時代に というところから 来たものだが、

sokono gakudo:-jananka warazi hæ:te kijoqta
そこの 学童やなんか わらじ はいて 来たものだ。

(笑) toœ:mondade na: warazjorimitæ: kirecja-
遠いものだから なあ、 わらじみたい 切れてしまう

ude warazjo: hæ:te kijoqta amehurijananka
うで、 わらじを はいて 来たものだ。 雨降りやなにか

warajo hæ:te to:ko:sijoqtamonda
わらじを はいて 登校しよったものだ。

M ho:da sense:demo muranakakara kijorasitaga
そうだ、 先生でも 村中から こられたが

tekutekuto ajobide
テクテクと 歩きで……。

W ajondena: (笑) …………… ju: sense:ga muranakakara
歩いてなあ ……(不明) という 先生が 村中から

kijorasitaga
これそれたが……。

M icirihanka niri: sense:mæ:asa ajonde osie-
1里半か 2里 先生 毎朝 歩いて 教え

ni konnaranda
に 来なきゃならなかった。

Y 「その時分は名古屋へどうして行ったのですか？」

M enaŋojæ:datote ano koqkara acutazinsjamade
え 名古屋へだとて あの ここから 熱田神社まで

anta ajobibaqkade ikudakeda warazjo cukuq-
あんた、 歩きばかりで 行くだけだ。 わらじを 作って

toe:te warazi hæ:te ikimodori iqte naŋojano
おいて、 わらじを はいて、 往復 行って 名古屋の

dæ:ko:basikara acudamade
大幸橋から 熱田まで……。

W hunen noqte
舟に のって。

M sorekara hune: horikawao hunede ikijoqta
それから 舟で 堀川を 舟で 行くのだった。

so: sansende horikawa (笑) sansende ikijoqta
そう 3銭で 堀川を 3銭で 行くのだった。

W hode ano acutano hiðasi nisi toricuki joqta
それで あの 熱田の 東 (いや) 西 とりつくのだった。

na: wasi ntorā: iki joqta zibu nwa nise ndaqta—
わし達が 行った 時分は 2銭だった

kasira dæ:ko:basi jori maqto simodaqtawana
かしら、 大幸橋より もっと 下だったわな。

M ho:da ho:da nise n hōnde
そうだ そうだ、 2銭。 それで、

W nisenka sansende
2銭か、 3銭で。

M basjawa o:sukara acutamade gōsendadēna
馬車は 大須から 熱田まで 5銭だから、

gōsenwa eræ:deteqte minna hunede ano: sendo:—
5銭は 大変だといって 皆 舟で あのう 船頭

bunede na ano: iki joqta
舟で あのう 行ったものだ。

W atowa
あとは……

M ajōnde anta
歩いて あんた、

W sikatan næ:de warazi:
しかたがないので わらじを、

M ikimodori mazu:
往復 まず、

W warazjori hæ:te cy:teki joqtawana wasi ntorā:
わら草履を はいて ついていった。 わし達……

M rokurika hiciri ajōnde tekutekuto icin cija—
6里か 7里 歩いて テクテクと 一日が

karide iki joqtawana naðojæ: ikunoni sorede
かりで 行ったものだ。 名古屋へ 行くのに、 それで、

imano sjo:næ:ðawa hasiða kore hasicinða
いまの 庄内川、 橋が、 これ 橋賃が

do: demoko: demo ikimodoride iqseNcu gorinCu
どうしても 復きもどりで 1銭ずつ(いや) 5厘ずつ

dejoqtadena hode naŋojæ: iqte zeni cukaqte-
でなので、 それで 名古屋へ 行って 銭 使って

maqtewa hasiN watarende (笑) gorinwa nokoe:-
しまっては 橋が 渡れんので 5厘は 残して

tokana ikaN tijoqta sonoŋuræ: no zikidaqta
おかな いかん といったものだ。そのぐらいの 時だった。

naŋojæ: iqtatote zenino cukæ: zeni nisen
名古屋へ 行ったって 銭の、 小使銭に 2銭、

nisen moraŋuræ: no kotodaqta nisenka sansen
2銭 もらうぐらいの ことだった、 2銭か 3銭。

Y 「1銭はすごい価値でしたでしょう。」

W e: e iqseNda to: tokaqtawa
ええ 1銭が 尊とかった。

M mukasiwa kaNe: cu: o: to sitaru icirintoju:
昔は 寛永通宝 と したる 1厘という

zenikara buNkju: iciringomo: horekara nirin
銭から 文久 1厘5毛 それから 2厘

tiju: daqta ame iqpon kaundemo anta ano:
というだった。 飴 1本 買うでも あんた あのう

biwazimakara pi:hjara pi:hjarato ameo uri-
批把島から ピーヒャラ ピーヒャラと 飴を 売り

nikite kide hecukete nobasi joqtaN iqpon
にきて 木で へつけて のばした、 1本

ici icirinCudaqtadena: e: kodomono josu……
1…… 1厘だったでなあ ええ 子供の (不明)

minna icirin uci: moræ: ni hasiqte sono
皆 1厘 家へ もらいに 走って その

pi:hjara kawaNnaran. (笑) sonnakoto ima:
ピーヒャラ 買わんならん そんなこと いま

hanæ:tatote honmaN nareseN
話しても 本当に ならん。

W mukasiwa zeniga to:tokaqtawana:
昔は 銭が 尊とかった。

M ma: imawa kanemo dadakusada mada tæ:sjo:ni
もう いまは 金も そまつだ。 まだ 大正に

naqtekarada: anta: kom komeða: iqpjo: joen-
なつてからだ あんた こ、 こめが 1俵 4円

haciziqseNðuræ:nomoNda iqpjo:ða joenhaciziq-
80銭ぐらゐのものだ。 1俵が 4円80

sen sorede mæ:ða iqkanme goendade kome:
銭。 それで まゆが 1貫目 5円だから 米を

jarujo:nakoqtekan okæ:ko toranakanteqte
やをよふなことではいかん、 かいこを とらないかんといつて

iqsjo:kenme: kokora:wa jo:zandokoni naqta-
一生けんめい ころは 養蚕所に なつた

mondesu
ものです。

W ho:da takæ: tokiwa mæ: iqkanmeto kome iqpjo:-
そうだ、 高い 時は まゆ 1貫と 米 1俵

to
と (不明)

M komejoka mæ: iqkanmenon takakaqtakoton aru
米よりか まゆ 1貫目のほうが 高かかつたことが ある

W hode tanbozju: hatatoju: hata kuwabataN
それで 田んぼ中 畑という 畑 桑畑に

naqcimaqtawana:
なつてしまつた。

Y 「小さい時おばあさんがこの辺でかいこをかつていたよふな気がするが……。」

M kaqtorasita
かつていた。

W kaqtoraita
 かっていた。

W ma: okæ:kowa dokodemo ora^N tokoro næ:jo:ni
 もう かいこは どこでも いない ところ ないように

orijoqta hode okæ:kono sakaridatiju:to mo:
 おった それで かいこの 盛りだということ もう

kuu tokoroda nakarijoqtawa na: zenbu ucin-
 食う ところ なかった なあ。 全部 家の

naka medæ⁽²⁾ tatetemaqta horja zju:ro:do:
 中に め台を たててしまった。 そりゃ 重労働と

iqtemo hjakusjo:wa hjakusjo:wa zju:ro:do:ni
 いても 百姓は、 百姓は 重労働に

naretoruda okæ:koduræ: eræ:kotowa nakaqta-
 慣れているが かいこほど 大変なことは なかった。

wa na: jo:sarimade jarannaran joduwa⁽³⁾ hokoe
 夜まで やらなければならん。 夜乗、 そこえ

hitokuwa⁽⁴⁾ cukurannaran joqpro: nacuno iqsjo:-
 ひと桑を つくらなければならん。 よほど 夏の 一生

kenme: jaqtemo zju:icizika zju:nizimade
 けんめい やっても 11時か 12時にまで

narijoqtawa na: hode hjæ: asawa mata kuwao
 なったものだ。 それで もう 朝は また 桑を

karini okinnaran okæ:kono jonre: gore:ti-
 どりに 起きんならん。 かいこの 4 齢 5 齢と

juudaqtakedo sono zibunno mo: erasatiju:ko-
 いうだったけれど、 その 時分の もう 大変だというこ

towa imakara miruto jumemitæ:na jo: karada-
 とは 今から みると 夢のようだ。 よく 体

da cuzy:tana:to omo:puræ: jaqtawa na: (笑)
 が つづいたと 思うほど やった

gimingamande asokoda goziqkan toraqseru
 むりに我慢して、 あそこが 50貫 取る

kokoda rokuziqkan toraqserutoju:de maieNkiN
ここが 60貫 取るというので 負けん気に

naqte iqsjo:kenme: jaqtandakedo imakara
なって 一生けんめい やったんだけど いまから

omo:to jumemitæ:nakotoda honnakoto musu……
思うと 夢みたいなことだ。 そんなこと むず……、

kodomontara:ni hanæ:temo sjonise:senwana
子供達に 話しても 本当にせん。

M toræ::kotoo jaqtorasitamonda teqtoruðuræ:no
阿呆なことを やっていたものだと いったるぐらいの

kotode
ことで、

Y 「小さい時桑の実を食うのがうれしかったが、……いまは桑なんか全然ない、もう？」

W ho:da ma: no:naqtana:
そうだ。 もう なくなったなあ。

M ma: kono murawa no:naqta na: ma: kono heN-
もう この 村は 無くなったなあ、 もう この 辺

wa nisikasugæ:wa ma: hotondo kuwabatawa
は、 西春日井は もう ほとんど 桑畑は

næ:na ma: niwaðun ikja mada johodo aruðana
無い。 丹羽郡へ いけば まだ よほど あるな。

e: ko:nansiwa okæ:koo manda johodo kaqtoru-
ええ 江南市は かいこを まだ よほど 飼って

wana
る。

W cikaðoro mata okæ:kono sæ:sanða i:rasi:wana
近頃 また かいこの 採算が いいらしい。

M totemo itoða takanaqtadena
とても 糸が 高くなったので。

Y 「やり方も全部かわってきちうでわねえ。」

W e:e mukasikara miruto odæ:mjo:ðurasidakedomo
えええ 昔から みると お大名暮しだけど、

soreso:to omoeseNða imanomonowa oðorin
そうと 思わないが。 いまの者は おごりに

naretorudejo: cjoqtomo nanðiti ju:kotoo
慣れとるので、 少しも 困難ということ

sirasuto sodaqtekitorumonde mukasi: senso:-
知らずに 育ってきているので。 昔、 戦争

kara sjokurjo:no sukunakaqta zidæ:kara
から 食糧の 少なかった 時代から

miruto jumemitæ:na o:samaðurasidawa na:
みると 夢みたいな 王様暮した。

M so:da o jano zæ:san uqte minna nanðekade
そうだ。 親の 財産 売って 皆 いろいろと

kakarumonden⁽⁵⁾ (笑) minna: ano: zi: uqte
かかるのでな 皆 あのう 地を 売って

husin jaqtari nanðeka cukurudakedomo muka-
普請 やったり いろいろ 作るけれども、 昔

sino moNwa hitosedemo se:dæ:te jaqte hito-
の 者は 1畝でも せいだして やって 1

sedemo kaqtokitæ: kaqtokitæ:to ju: imawa
畝でも 買っておきたい、 買っておきたいと いう。 いまは

hantæ:dawa a: hjakusjo:wa o:ze joke aruto
反対だ。 ああ 百姓は 大勢、 よけい あると

kusan haerude domunaran ma: are uqte icimæ:
草が はえるから いやだ、 まあ あれ 売って、 1枚

uqte jarja: zé:kinða derude sorejoka ucide-
売って やれば、 税金が 出るから それより 家で

mo cukurana kan nanzo kawana kante (笑) a:
も 作らないと いかん、 何か 買わな いかんて、 ああ

do:ðu dekasu minna so:juhu:N naqtemaqtawana
道具 作る、 皆 そういうふうに なってしまった。

Y 「しまいにはこの辺どういふふうになるだろう？」

W do: naru siranna: ma: (笑) mukasiwa denzio
どう なる しらんなあ もう 昔は 田地を

urucju:to nandaka siran asokoða denzi uraq-
売るといふと なにか しらん あそこが 田地を 売る

seruðena teqte cjoqto hazukasii:ðuræ:daqta
そうだ といつて すこし 恥ずかしいくらいだつた。

ma: imawa he:kide denzi uqta zjenide se:ka-
もう いまは 平気で 田地を 売つた 銭で 生活

cusiteku (笑)
をしていく。

M sorja mukasiwa hitosedemo e: kaqte kaqteq
そりゃ 昔は 1畝でも いい、買つて、 買つて

teqtejo: ano: jaqtamondan ma: kodomo so:
てつて あのう やつたものだが。 もう 子供が そう

ju:de ojano mori sedemo e: joni narutoju:-
いうで、 「親の 守りを せんでも よい 世に なる」という

jo:na hakuzjo:na tokini naqtekitamondade na:
よふな 薄情な 時に なつてきたので なあ、

ojamo ma: soreðani seru hicujo:mo no:naqte-
親も もう それだけ する 必要も 無くなつて

kita mada hondemo inakadewa johodo honna
きた。 まだ それでも 田舎では よほど そんな

oja sutetarujo:na monowa sukunæ: jononakada-
親を 捨ててやるよふな 者は 少ない 世中だ。

wa na: soredemo mi nna kjo:bino musumewa a:
それでも 皆 いまごろの 娘は ああ

W babanukitojara (笑)
ばば抜きとやら

siso:ða kawaqtekitawa na:
思想が 変つて来たなあ。

M joda kawaqtekitade
世が 変つてきたので。

M kodomono hutarisan^Nni^N aruto a: koredewa
子供の 二人三人 あると ああ これでは

eræ: tewa^Nnara^N sorja oba:sanni jaqkæ:
もたん といわんならん。 そりゃ おばあさんに 面倒を

bucuketokerukedomo⁽⁶⁾ so:ju: wakeni ikanwa na:
ぶつけておけるけど そういう わけに いかん。

Y 「米やなにか 昔よりよけい取れるようになったですか？」

M komekana so: mukasiwa sorja koeo jo: sena^N-
米かな。 そう 昔は そりゃ 肥を すること

dadena koewa
が出来なかったでな。肥は……

W koeo sena^Ndade gæ:cju:toju:monoo cjoqtomo
肥を しなかったので、 害虫というものを すこしも

sjo:dokutoju:kotoo sirana^Ndade ta^Nbode
消毒ということを 知らなかったので 田んぼで

musiqkerani kuwareqcjaijoqta
虫けらに 食われてしまった。

M kjo:biwa hora ma: sjo:dokumo jarusina: ma:
いまは そりゃ まあ 消毒も やるし、 まあ

ano: ko:sakuwa a^Nmari jarademo hora mukasi-
あのう 耕作は あまり やらなくても そりゃ 昔

duræ:wa jok jokawa joke toreruwana
ぐらいは よ、 よりは よけいに 取れる。

Y 「だんだん手間を省いては……」

W e: tema^o hab^yite tasan^{no} hode ko:sakutoju:ko-
ええ 手間を 省いて 多産の、 それで 耕作というこ

too dæ:nini site sjo:dokuo dæiicini sikake-
とを 第三に して 消毒を 第二に し始

tawana: mata hoda nakerana toren^{mo}ndena
めた。 また そうで ないと とれないのでな。

ko:saku: motowa nihe^{nmo} kuwa ireqte horeka-
耕作は 昔は 2度も 鍬を 入れて それか

ra ta:suri tanokusano niheNcumo jaqte go-
ら 田すり 田の草とりの 2へんも やって 5,

goroqpenCu arukijoqta ma imadewa iqpenhoka
5, 6べん (田の中を)歩いた。 もう いまでは 1べんしか

arukeheN (笑) hodemo keqko: toreruNdadena
歩かん。 それでも 結構 とれるのでな

sjo:dokusæ: sitokisæ:sureba
消毒さえ しておきさえすれば。

M mukasiwa tanokusa tejoqta ima kusuride
昔は 田の草とり といっておった いまは 薬で

sjuqsjuqto ma kusano haen kusurio makudake-
ジュッシュュッと 草の 生えん 薬を まくだけで(いい)

de hiedakewa hondemo kareNdekanwana donna
ひえ草だけは それでも 枯れんわ。 どんな

bujobujono hiedemo hiedakewa cuoe:dekan
やわらかい ひえ草でも、 ひえ草だけは 強いからいかん。

tanokusa
田の草とり……

W kotosiwa hamakiya ooe:na
今年(は)は しまきが 多いな

*(補注) hamaki orangatade cokoqto **(補注)
hamaki おれのところでは すこし すえで 肥えていたら

mo: hiqpaqtemaqtatara
もう 引張ってしまった。

W hiqpatemaqtatara
引張ってしまった……

M aqcikoqcito
あちらこちらと。

W ci:to toqtemisuto omoqte torinikakaqtara
すこし 取ってみようと 思って とりかけたら

tepa cukande œ:cimaqtatara
手が つかんで やめてしまった。

M mukasi maŋga⁽⁷⁾de suqkoki oqtaŋa na:
昔 まんがで すいたが なあ。

W ora: ano: warasuŋuri moqteqte na: suqkoe:
おれは あのう わらすぐりを もって行って なあ すく

taruto hæ: nisja:ni naqtorude ije: zu:qto
と もう さなぎに なっているの で 上へ ずっと

ukiaŋaqtémaudena
うき上って来てしまうのでな。

M hoN:
ふん。

W torerukota torerukedomo tema: kakaqte
とれることは とれるけれど 手間が かかって

sjo:ŋa næ:
しかたが ない。

M ho:da doeræ:moN dekasana kanwa (笑) are mata
そうだ、 大きなものを 作らないかん。 あれは また

cuwæ:de suqkokenwana nakanaka
強いので すけんわな、 なかなか。

W suqkokinuky:
すきにくい。

M ho:da ra muŋikokibano jaræ:jacu moqtekte
そうだろう 表こき歯の あらいのを もって行って

sjuqsjuqto mukasi jaqtakotoŋa aru
ジュッシユッと 昔 やったことが ある。

W ho:da maŋgaqte jatsudato e: wana
そうだ まんがと いうのだと いい わな。

M are sjo:toku taqtato jaqta hitowa e:waw
あれは 本当に 何度も やった 人は いい。

W ho:da
そうだ。

M N: iqpēndakeja sokora jaqtamonowa jokeda
うん、 ーペンかそくら やったものは かって(だめ)だ。

N: cjoqto tanbo koetonnowa jokeda
うん、すこし 田んぼが 肥えとるのは それだけ(だめ)だ。

W koetorunowa jokeda ade koetorunon umæ:to
肥えてるのは かえって(だめ)だ。あれで 肥えとるのが うまいと

miete
みえて(うまいらしくて)……

M hn:
ふん。

W musin joke joruto miete
虫が よく よるらしくて……

M ho:da are wakundarana
そうだ。 あれ わくのだろうな。

W wakundawa na:
わくのだ なあ。

M aomusiða a: ano:
青虫が ああ… あの……

W nde miNna nisjæ: naq ima
それで 皆 2才に なっ… いま……

M ma: nisjæ: naq
もう さなぎに なっ……

W ma: nisjæ: naqcimatoru
もう さなぎに なってしまってる。

M ho:dara
そうだろう。

2. 昔の祭り

録音日時 1967年8月28日

録音場所 愛知県小牧市大字藤島
字居屋敷 山田正子氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
W	加藤桑三郎	男	明治21年生	農業	藤島のみ
M	加藤桑三郎	◇	◇ 23年生	◇	◇
Y	山田達也(編者)	◇	大正14年生	教員	藤島1才~8才, 名古屋9才~

解説：話は話し手の古老達の若き日の祭の回想である。

1と同じくYは聞き役。

W mukasi wasintora: no wakæ: zibunno omacurito
昔 私達の 若い 時分の お祭りと

ju:to nakanaka imato ciŋaqte se:dæ:to
いうと なかなか いまと 違って, 盛大と

ju:daka gensjukuto ju:daka siranŋa siŋaku-
いうか 厳粛と いうか 知らないが, しんがく

teqte namo
といて ねえ。

Y 「はあはあ」

W maehikara neqsinni sikiŋa aqte na: siŋaku-
前日から 熱心に 式が あって ねえ。 しんがく

to ju:nowa are siŋakuto ju:ka siranto omo-
と いうのは, あれは しがくと いうのか しらと 思

unda(ŋa) siŋaku siŋakuqtijoqtawa na:
うのだ(が), しんがく, しんがくといった ねえ。

(so)de siNɔakukara hɔ: doqkano sono zibun
それで しんがくから もう どこかの、 その 頃

jomezisiteqte sisiɔa arijoqte na: hono
よめ獅子とって 獅子が あったものだ ねえ。 その

kaɔurao doqkade maqte ary: tekijoqta desu
神楽を どこかで 舞って 歩いていったもの です。

Y 「お祭りは何日ですか。」

M mukasiwa haciɔacuno zju: rokunciɔa omacuride
昔は 八月の 十六日が お祭りで

si...siNɔakuto ju:to N: hiɔasino omijano
しんがくと いうと、 うん 東の お宮の

ɔondenjama ɔa honmacurini naqte hode akuru-
梵天山(?) が 本祭りに なって、 それで 翌日、

hi ano go: no omijasanaɔa zju: rokunciɔa
あの、 郷の お宮様が、 十六日が

omacuride sorede anta mukasiwa muko: no
お祭りで、 それで あなた、 昔は むこうの

*(補注)

hiɔasino omijamade o:kina jatɔ: o hi: teqte
東の お宮まで 大きな 屋台を 引いてって、

hode muko: de sisi mawæ: te kite hode ma:
それで 向うで、 獅子を 舞わせて、 きて、 それで

akuruhiwa mata go: no ho: no omijasanmade
翌日は また 郷の ほうの お宮様まで

sisimæ: o jaqtari umao dæ: te hasirakæ: tari
獅子舞を やったり、 馬を 出して 走らせたり

site omacurisawaɔio mukasiwa jariorimasita
して、 お祭り騒ぎを、 昔は よくやりました。

ma: zuNni wakæ: sitoɔa himan næ: de⁽⁹⁾
もう 次第に 若い 人が 暇が なくて。

jomezisino^{** (補注)} ke:ko nanto ju:to tæ: kokara
よめ獅子の 稽古 と いうと、 大鼓から、

hukara utautæ:kara minna (mma:e) naŋæ:
笛から、 歌い手から、 皆 (まえから) 長い

æ:da ke:ko site omacuridakede jarudakeno
間 稽古 をして。 お祭りに やるだけのことだ

kotode ma: imano wakæ:sjuwa nakanaka isoda-
のに。 もう いまの 若い人達は なかなか 忙

site sonna kotoa dekimaseNde koroqto sutaq-
しくて そんな ことは 出来ませんので すっかり すたっ

temæ:masita
てしまいました。

W hora mukasiwa omacuritju:to gensjukude
そりゃ 昔は お祭りというと 厳粛で、

wakarentju:ŋa omacurino sihæ:o sitoqtan(de)
わかれん(若連)というのが お祭りの 支配を していたもので、

hode wakarentju:to nizju:gomadeŋa wakaren
それで 若連というと……、 (Mに対して) 25までが 若連

daqtakaka
だったのか?

M ho:da
そうだ。

W nizju:gomade horekara ninenŋa cju:ro:teqte
25までで、 それから 2年が 中老といって

namo cju:ro:sju: cju:ro:sju: tijoqtawa na:
ねえ 中老衆 中老衆 といったものだ ねえ。

nizju:rokuhicino hitoŋa cju:ro:sju: hode
26, 7の 人が 中老衆で、 それで

omacurito naruto minna wakæ:mondemo moq
お祭りと なると 皆 若い 者でも 紋……、

moncukibaoride na: hode sikio aŋete soreo
紋付羽織で ねえ、 それで 式を あげて、 それを、

sono sikiŋa sono mukasino kotonara siqsona
その 式が その、 昔の ことで 質素な

to:ɕanno arja to:ɕandaqta na: 冬瓜の、(Mに対して)あれは 冬瓜 だった なあ。

M (笑)

W to:ɕanno siozuke de hode sjakeo omikio hiræ:—
冬瓜の 塩付で、 それで 酒を、 おみきを 配

te na: hode jadode hitomæ: maqte kondo
って ねえ、 それで 宿で 一舞い 舞って、 今度

bondensamæ: iqte siɕakuno hidato bondensa—
ぼんでん様へ 行って、 しんがくの 日だと ぼんでん様

mæ: iqte mata sitomæ: maqte hode omijæ:
へ 行って、 また 一舞い 舞って、 それで お宮へ、

kite maqte horekara mata jadoto ko:ju huni
来て 舞って、 それから また 宿と、 こういふ ふう

sisimæ: o:jarioqtaa sjo:denkaɕuratio ju:
獅子舞いを やったものだ。 しょうでん神楽と いう

sisio jomezisino kaɕurao jarioqtaana hode
獅子を、 よめ獅子の 神楽を やったものだね。 それで

honmacurito naruto: mata soreni iqso: kosite
本祭りとならんと、 また それに さらに、

sono zibunwa kucjo:toa iesenandade arewa
その 時分は 区長とは 言わなかったから、 あれば

sjo:q sjo:jaka soncjo:(ka)
庄、 庄屋か。 村長(か)。

M (ija: na:ntjo)qtæ: na:
(いや、 何んとい) ったか、 なあ。

W imano kucju:sanno kawarida: na: kono azano
今の 区長さんの 代りだ、 ねえ。 この 字の

simario sitoru sitono uci: dæ:icini iqte
締りを している 人の 家へ 第一に 行って

maqte sitomæ: maqte horekara omija: iqte
舞って、 一舞い 舞って、 それから お宮へ 行って

ma qte jadoni deru tokiwa muroNno koto hore-
舞って、 宿(を?) 出る 時は 無論の こと それ

kara omijade maqte okannosamano maede maq-
から お宮で 舞って お観音様の 前で 舞っ

te na: kaðurazisiða cumari omacurino goci-
て なあ。 神楽獅子が つまり お祭りの 御馳

so:daqta(Nda) gaqko: aðuruto suðuni so:ju:
走だった(のだ)。 学校を 終えると 直に そういう

ke:koo saferarete hetanaðara maqta kotoo
稽古を させられて 下手ながら 舞った ことの

oboEN aruða
覚えが ある。

Y 「何か面白かったことありませんか。」

M ho:desu na: nakanaka omosiroe:ðoto næ: sono
そうです ねえ。 なかなか 面白いところで なく、 その

curæ:me site oboENnaranaNdade na naðai aida
つらい目を して 覚えなければならなかったので ね。 長い 間、

tæ:kowa tæ:kono sen sense: tanonde ary:te
大鼓は 大鼓の 先…、 先生を 頼んで あるき、

honde utautæ:wa utautæ:no tokode jadoo
それで 歌い手は 歌い手の 所で、 宿を

ikuc nanðenkade karitena hode ke:ko sita
いく…、 なん軒かで 借りてね、 それで 稽古を した

aðeku omacurino jo:sariwa mata jadode muka-
うえ、 お祭りの 夜は、 また、 宿で 昔

sino kotonara sibæ:o takunde siq sisisibæ:-
の ことで 芝居を 計画して し…、 獅子芝居

teqte sisisi⁽¹⁰⁾ onnajakuwa sisiða kabutoo kabu-
といて、 獅子を、 女役は 獅子が 頭(かしら)を かぶ

qte onnajaku jaqte æ:mæ:de mukasiwa sibæ:o
って、 女役 やって 相舞いで、 昔は、 芝居を

j a r i o q t a d e s u w a n a e : 昔と今と比べて、昔は
やったものですよ。 ええ。 昔は、

注

1. 昔といま

- (1) [p. 9] 曾野は藤島部落のとなりであるが、行政的には丹羽郡岩倉町に属する。
- (2) [p.16] かいこを銅う台。
- (3) [p.16] 夜、桑をやること。
- (4) [p.16] 次にやる分の桑。
- (5) [p.18] 「税金がかかる」の意か。
- (6) [p.20] 「おばあさんがいないとそうはいかない」の意。
- (7) [p.22] 耕作の道具。
- (8) [p.22] 縄をつくるわらをすく道具。

2. 昔の祭り

- (9) [p.25] ここに「いまはだめになったが昔は」の意が略されている。
- (10) [p.28] *sisio* 以下 *æ:mæ:de* までは「獅子舞をやりました。女役は、獅子役が獅子のかしらをかぶって、女役になり、二人舞いで」の意。

(補注)

1. 昔といま

* (p.21) はまき 稲につく青い、蚕を小さくしたような虫。稲の葉を食う。この虫は糸を出して、稲の葉を何枚か巻き合わせて巣を作る。なお、この虫は稲が肥えているときによく生ずる。

** (p.21) …… *suede koetoqtara mo: hiqpaqtema qta*
すえて 肥えていたら もう 引張ってしまった。

これは、稲の成育時の終りに稲が肥えていたらはまきが生じて稲の葉と葉とを巣をつくるために引張り合せてしまった という意味である。

*** (p.22) i je: zuqto uki a q t e m a u d e n a

上へ ずっと うき上ってしまうでな。

上へずっと梳けてうき上ってしまうでとりやすいの意。

2. 昔の祭り

*(p.25) 屋台 山車のこと。

** (p.25) よめ獅子 女獅子のかしらをかぶって、大鼓、笛なぞにあわせやる舞い。踊りの所作がやわらかいとのこと。

*** (p.28) 獅子芝居 二、三人ほどで行う素朴な、所作を中心にした芝居。主なる女役が女獅子のかしらをつけて踊る。主な出し物は阿波の鳴渡、忠臣蔵の三段目、阿漕の平次なぞであるとのこと。なお、阿波の鳴渡ではお弓が、三段目では、お軽がかしらをかぶる。p.28の下から2行は、女役が女獅子のかしらをかぶって二人舞いを舞う芝居をやったという意。

非 売 品

1 9 6 8 年 1 1 月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町